人口減少時代をいかに生き延びるか

疲弊するマチに明かりを

町の人口減少が止まりません
今年1月末には、とうとう8千人を割り込みました
今後も人が減っていくことが避けられない見通しの中
マチが自立していくために、活気を取り戻すために
今、何が必要なのでしょうか
皆さんと一緒に考えてみたいのです

止まらない人口減少

広報てしかがの裏表紙を1枚めくると「今月のこよみ」の下に「人のうごき」というコーナーがあります。今年の3月号に載ったのは、1月末現在の本町の人口、7千998人、8千人を割り込こんだという現実。前月比、実に20人のマイナスでした。以降も減少は続き、6月末現在の人口は7千901人となっています。

本町の人口は、高度成長期真っ只中の1960(昭和35)年にピークを迎えました。このときの人口は、国勢調査の数値で1万3千262人。54年前には、現在の約1・7倍の人が弟子屈にいたということです。

その後、減少に転じ、一時的に増加した時期はありましたが、現在まで減少が止まらない状況が続いています。

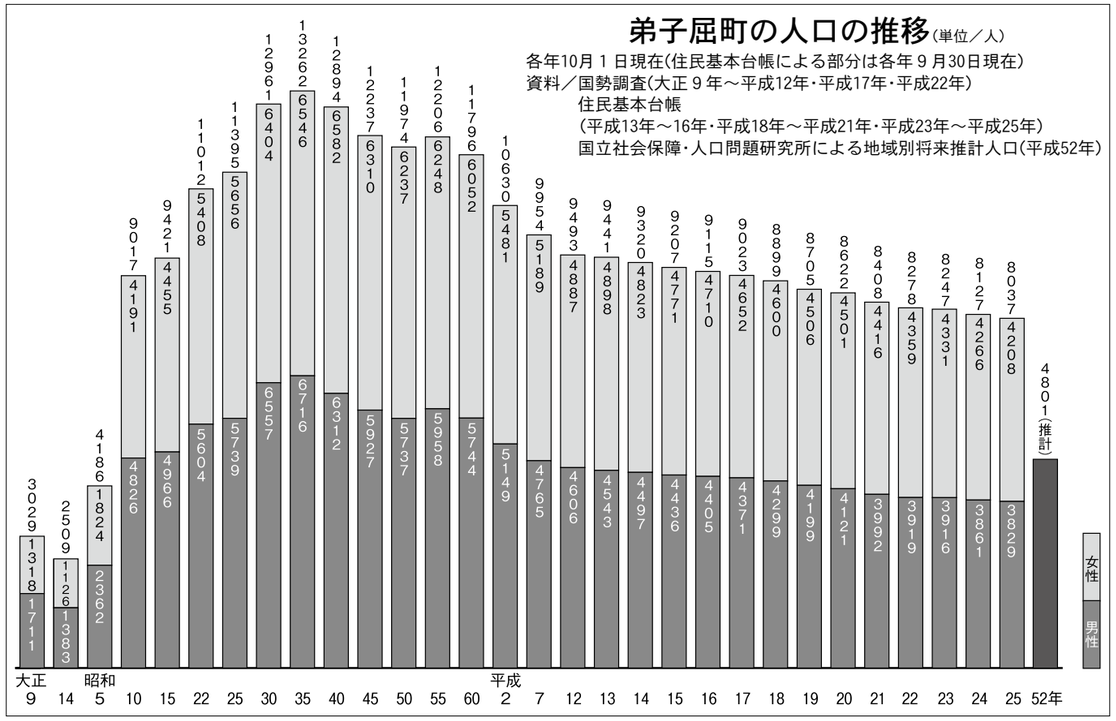
国立社会保障・人口問題研究所が昨年3月に発表した日本の地域別将来推計人口では、2040(平成52)年、本町の人口は4千801人になると推計されています。2010(平成22)年の国勢調査人口8千278人と比較すると、30年で約42%も減少することになります。

また、民間の有識者で組織する日本創生会議は今年5月、2040年に本町の20～39歳の女性の人口が57・6%減少すると推計。若い女性の減少は少子化の要因であり、さらに人口減少が加速することが危惧されます。実際、同会議が試算した消滅可能性都市896の中に、本町も数えられています。

なぜ人口が減るのか

なぜ、本町の人口は減り続けているのでしょうか。

要因の一つとして、少子高齢化が進んでいることが挙げられます。特に少子化は、人口減少に直で影響します。高齢化が進み、日本人の寿命は格段に長くなりました。ですが、いつかは必ず死を迎えます。その一方で新たに生まれる命がなければ、人口は確実に減っていきます。前述したとおり、2040年に20～39歳の女性が大幅に減ると推計された市区町村が消滅可能性都市とされたのは、その年代の女性が子どもを



産み、育てる中心であるという考えからです。そして、元々人口が少ない本町のような地方の自治体は、少子化の影響を受けやすいといわれています。

ほかに、人が都市部に流出しているということもあります。特に若い世代の流出が顕著で、これは町内に雇用の受け皿が少ないことが大きく影響していると考えられます。また、医療や教育などに対する不安、選択の余地がないということも、背景として考えられます。

人口減少はなぜ問題

人口の減少には、どのような問題点があるのでしょうか。

一言でいえば、自治体としての経営が成り立たなくなるということです。

まず、経済への影響があります。人が減るということは、労働力が減るということ。労働力不足による地域産業の低迷が見込まれます。また、地域内での消費が冷え込み、商工業へ与える影響も小さくありません。

これにより町は、まちづくりの大きな財源である税収が減少。さらに、国から町に交付される地方交付税も、その算定には人口が大きくかかわっているため、地方交付税も減収。結果的に、公共サービスの質が低下したり、住民の皆さんにさらなる負担をお願いしたりする事態が想定されます。

若者が減る、出生数が減ることで高齢化はさらに進み、年金や介護保険、福祉給付などの社会保障費の負担も増加します。

そして何より、人口が減ることでマチの活力が失われてしまいます。

人口減少に歯止めをかけるには、皆さんのニーズに沿った、住みよく、活気と魅力があるまちづくりが急務です。

選ばれるマチ目指し

減り続けている本町の人口ですが、一方で増加の要素もあります。道外や町外から移住してくる方たちです。弟子屈の貴重で雄大な自然にひかれて移住してくる方は毎年コンスタントにいて、町でも２００５年から移住政策に力を入れています。

移住してくる方は、北海道への憧れだけでやって来るわけではなく、弟子屈を選んでやって来ます。選ばれるマチであること。ここに、人口減少を食い止めるキーワードがあります。

移住して来る方だけではなく、今、弟子屈に住んでいる方にも、これからも住み続けてもらうこと、住み続けたいと思ってもらえるマチであること。選ばれるマチを目指していかなければなりません。

若者がきちんと収入を手にし、新しい家族を迎えて生活していけるマチ。

安心して子どもを産み、育てられるマチ。

安心して老後を迎えられるマチ。

各産業に勢いのあるマチ。

子どもからお年寄り、障がいのある方など、すべての方が生きがいを持って、生き生きと暮らせるマチ。

そんなマチを目指していきます。

わがマチに自信と誇りと幸せを

まちづくり政策課長　秋 山　一 夫

本町の人口は、ピークから毎年徐々に減ってきましたので、炭鉱の閉山などで急激に減ったマチに比べると危機感は感じられないかもしれません。

しかし現実に、ここ最近の町内の年間出生数は50人前後ですし、産業面では、求人を出しても応募がなく、担い手不足の声も聞かれます。本文に書いてあるとおり、人口減少はまちづくりにさまざまな負の影響を及ぼします。また、報道では、消滅可能性都市や限界集落など暗いイメージの言葉で飾られるので、気持ちも落ち込んでしまいます。

日本全体の人口が減少する中、この地域だけが人口を増やすことは難しいですが、減少のスピードを遅くし、維持していく方策はあると思います。このマチに住む人が自信と誇りにみなぎって幸せな生活を送ることが、マチに明かりをともすことになります。

自分と家族の幸せのために、一緒に考え、行動しませんか。まずは、人口問題フォーラムへのご参加をお待ちしています。

わたしたちのマチのことだから
あなたにも一緒に考えてほしい

人口問題フォーラム
人口減少下における弟子屈町のまちづくり

8/21㈭ 18:30
町公民館

人口減少はなぜ起きているのでしょうか。

全国的な傾向や本町の傾向を分析するとともに、そのメカニズムを知るために、専門家を招いてフォーラムを開催します。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

※筆記用具をご持参ください。

▶日時／８月21日㈭　18時30分～

▶場所／町公民館

▶日程

【講演】18時30分～19時50分

テーマ／弟子屈町の人口－その将来を考える

講師／原　俊 彦(はら・としひこ)氏

札幌市立大学デザイン学部教授

日本人口学会会長

第３次(平成４～13年)弟子屈町総合計画アドバイザー

【公開ディスカッション】20時～20時30分

テーマ／人口減少時代のまちづくり

ファシリテーター／原　俊 彦氏

出演／德 永　哲 雄 町長

須 藤　直 武 氏(町移住アドバイザー)

木名瀬　佐奈枝 氏(町総合計画評価委員)

原　俊 彦 氏

1975年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1977年～1982年フライブルグ大学(ドイツ)哲学部第四類に留学、社会学・政治学・経済政策専攻、社会学博士取得。帰国後、㈶エネルギー総合工学研究所（主任研究員）を経て㈱研究開発コーディネーターを設立（代表取締役）。1988年北海道東海大学国際文化学部助教授、1995年同教授、2006年から現職。

問い合わせ先／役場まちづくり政策課政策調整係☎４８２-２９１３(課直通)